

審 議 結 果

会 議 名	盛人大学運営委員会第1回委員会
開 催 日 時	令和元年11月26日(火) 10時00分から10時45分
開 催 場 所	川口市立かわぐち市民パートナーステーション会議室3
出 席 者	臼倉委員長、中村(勝)委員、加藤委員、 中村(茂)委員、廣瀬委員、小寺委員、 川野課長、買田課長補佐、作田主査、本間主事
議 題	1 開会 2 正委員長の就任について 3 議事 (1) 報告事項 ア 令和元年度コース運営について (2) 協議事項 ア 令和2年度農業体験コース受講料について 4 その他 5 閉会
公開／非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	0名
会 議 資 料	資料No.1 盛人大学運営委員会委員名簿 資料No.2 盛人大学運営委員会設置要綱 資料No.3 令和元年度盛人大学事業の状況 資料No.4 平成30年度盛人大学事業結果

	資料No.5 盛人大学各年度実施コースの推移 資料No.6 令和2年度盛人大学農業体験コース受講料の算出について
審 議 経 過	別紙のとおり
そ の 他	—

審 議 経 過

第1回委員会

1 開会（10時00分）

2 正委員長の就任について

- ・ 事務局から正委員長の就任について報告。
- ・ 委員長から挨拶。
- ・ 事務局から出席委員数が委員定数の過半数に達しているため、盛人大学運営委員会設要綱第6条第2項の規定により本委員会が成立している旨を報告。
- ・ 事務局から本会議の公開と傍聴について説明。
- ・ 事務局から配布資料について説明。
- ・ 委員長から会議録署名人を選任。

3 議事

(1) 報告事項

ア 令和元年度コース運営について

○委員長

規定により議長を務める。委員の慎重かつ積極的な審議とスムーズな議事進行への協力をお願いします。3議事（1）協議事項のア 令和元年度コース運営について事務局の説明を求める。

○事務局

令和になり、初めての運営委員会となるため、初めに今年度の実施状況について説明させていただく。

まず、平成30年度の盛人大学事業結果について説明させていただく。6ページ資料4をご覧ください。定員数320名に対し、274名が受講していた。卒業要件は8割以上の出席、卒業レポートの提出の両方を満たすこととしており、227名が卒業した。

盛人大学は市民大学と異なり知的欲求や学習意欲を満たすためだけでなく、自主的に地域で社会貢献活動をする人を育てる場である。今年度も、30年度の卒業生に対し、社会貢献活動の実施状況等についてアンケート調査を実施する予定である。

4ページ資料3をご覧ください。令和元年度の受講状況についてご説明申し上げます。今年度は定員315名に対し、280名の受講生が受講している。平均年齢が65・8歳、最高齢が90歳となっている。特筆する点は令和元年度よりカウンセリング入門コースの名称を心理カウンセリングコースに変更し、受講生が増加した点である。30年度の29名から、定員と同数の35名に増加した。

5ページは公開講座の応募状況である。資料作成の都合から11月15日現在のデータとなっていることをご了承いただきたい。公開講座は川口市内在住または在勤の48歳以上の方を対象に、盛人大学を広く知ってもらい、次年度以降に盛人大学に応募する際の参考としてもらうために、試用の講座として開講しているものである。

次に7ページ資料5をご覧ください。こちらの資料は、平成19年度から令和元年度までの実施コースの推移および受講者数の一覧となっている。盛人大学は、表の下に記載のとおり平成18年度に環境をテーマとした講座を実施したことが始まりとし、その後表のとおり、漸次コースを開設している。

平成29年度から30年度まで受講者の数は横ばいだったが、令和元年度は6名増加した。これは「広報かわぐち」への受講生募集の記事を、例年より1か月早く掲載したことによる効果だと考える。来年度も受講生が増えるよう尽力して参りたい。

○委員長

今の説明について、ご意見・質問はあるか。

○委員

(特になし)

(2) 協議事項

ア 令和2年度農業体験コース受講料について

○委員長

(2) 報告事項のア 令和2年度農業体験コース受講料について事務局の説明を求める。

○事務局

8ページの資料6をご覧ください。

盛人大学各コース受講料については、平成27年9月30日に開催した盛人大学運営委員会でご審議いただき、設定に関して基本的な考え方を決定いただいている。

その決定内容についてだが、まず、各コースの講師料は、1「基本的な考え」の(1)のとおり農業体験コースは40万円、他の8コースは20万円を上限とすることとしている。ただし農業体験コースは単位数に鑑み40万円を上限としている。なお、講師料は1単位、1時間につき1万円が上限としている。

次に(4)のとおり、各コースの次年度講師料を合算し、その額の8割程度を受講料収入で賄うように設定することとしております。

また、(2)と(3)にあるように、受講料の設定は3段階、下限は4,500円とすること。ただし、(5)のとおり大幅な値上げにならないよう配慮すること、以上の5項目を基準として受講料を算出している。

2の平成30年度及び令和元年度受講料をご覧ください。平成30年度第1回盛人大学運営委員会での協議の結果、令和元年度は農業体験コースの受講料を8,000円に変更した。

3の令和2年度案についての表だが、右下の合計をご覧ください。農業体験コースの受講料を昨年同様8,000円に仮定した場合、全コースの受講料収入が講師料支出の84.1%となり、先に説明した要件に合致しているため、農業体験コースの受講料については据え置きとすることを事務局案として提案する。

農業体験コース以外の受講料については、講師謝礼の合計と定員が令和2年1月末に明

らかになるため、次回の運営委員会での議題とし、今回は農業体験コースの受講料についてご協議いただきたい。

○委員長

今の説明について、ご意見・質問はあるか。

○委員

前年から講師料等の諸要件に変更がないのであれば、次年度も今年度と同じ受講料額でよいのではないか。

○事務局

ご意見に感謝する。他の要件には変更がないため、事務局としても継続して同じ金額としていきたい。

○委員

来年度から、講師料の合算額の8割程度を受講料収入で賄うように変更するという事なのか。

○事務局

講師料を合算し、その額の8割程度を受講料収入で賄うというのは、基本的な考え方を審議いただいた際の一定のルールとして既に定められたものである。来年度の受講料もこちらのルールに従い、考えていただきたい。

○委員

受講生が多いほど講師料の支出割合が少なくなると考えられる。つまり、どのように受講生を増やすかがポイントとなる。資料3を見ると、地域デザインコース、ボランティア社会起業・ビジネスコースにおいて、定員割れが目立つ。地域デザインコース、ボランティア入門コースなど、コースのその目的としても重要なコースが定員に達していない状況である。何が原因であろうか。この課題について実行委員から意見があるのか。

○事務局

ご指摘のコースについては、事務局としても今年度は受講生の少なさを感じているところである。前述したとおり名称を変更し講座の内容をイメージしやすいようにしたところ、心理カウンセリングコースが定員に達した。解決策は一概に述べられないが、広報誌へ早い時期に掲載し、なるべく応募しやすいようにするとともに、応募の地域性など考えつつ募集の仕方を工夫していきたい。

○委員

実行委員の活躍が盛人大学の大きな特長といえる。今年は大きな災害もあり、ボランティアの必要性が高まった年だった。そのような時期に受講生が少ないのはいかななものか。実行委員などの口コミが一番の宣伝になる。行政だけでなく実行委員との協働でしていくことが必要である。

○事務局

近年はボランティアに注目が集まる機会が多く、盛人大学の応募者増加につながるのではないかと期待している。盛人大学実行委員との協働については、実行委員会において協力を呼び掛けていきたい。

○委員

以前はリピーターも受講可能だったはずである。再受講を受け入れれば、その分受講生が増加するのではないか。

○委員

再受講を禁止しているわけではない。ただし優先順位としては過去3年間受講経験がない方が優先となる。定員に満ちていないコースは再受講者を含んでも定員に達していないということである。PRについてはわかりやすいコース名に変える、募集要項の内容を見直すなど改善を行っている。またボランティア見本市では盛人大学としてブースを出店し、受講生が市民に向かって活動内容のPRを行った。PRは行っているが、年によりばらつきが出てきてしまう。特に気になるのは健康生きがいつくりコースが近年定員に達しないことである。ボランティア入門コースについては、全国でボランティア関係の窓口も多々あり、

盛人大学に固執する必要はないとも感じるが、ボランティア入門コースの実行委員は受講生減少について危機感を持っているようである。

○委員

以前滋賀県でおこなっている100歳大学の話をさせていただいた。川口の健康生きがいのための体操を全コース共通して行い、体を動かし、盛人大学としての一体感を持つこともいいのではないかと申し上げたがいかがか。

○委員

確か先日の大学祭では健康生きがいつくりコースが体操を行ったのではなかったか。

○事務局

今年は「あえいおう体操」という企画を行った。

○委員

健康生きがいつくりコースでは毎回講義の前にラジオ体操を行っている。

○委員

盛人大学としての一体感を持てるようなものがあつたほうが良いと以前の運営委員会では意見が一致したと記憶している。

○事務局

昨年度の大学祭では前半は並木公民館で学習発表会を行い、午後は盛人大学キャンパスで各企画を行った。今年は大学祭実行委員からの意見を反映させ、受講し始めて半年ということでコース紹介を盛人大学キャンパスで行った。場所としては狭かったが、逆にそれが一体感を生んでいた印象を受けた。

○委員

一体感といえば、以前は卒業生のふれあいの場として盛人大学キャンパスが使用できた。現在は受講生が優先利用となっている。盛人大学キャンパス以外でいいので、卒業生も含め触れ合える場があるとよい。

○委員

卒業生の輪が広がり、川口全体を支えるというのが（盛人大学開学の際の）イメージだった。そういった意味では触れ合いの場は必要かもしれない。コースを超えて横のつながりがあると盛人大学の飛躍につながるのではないか。例えば大学祭で社会起業・ビジネスコースは田楽大根の販売、農業体験コースでは無農薬野菜の販売を行っていた。野菜を育てたものを加工して売るなど考えてもよいのではないか。

○委員

例えばコースの名称を「農業起業ビジネスコース」といったように少し変えて、新しいものを作ってもよいかもしれない。

○委員

農業体験コースは具体的にどのような活動をしているか。

○事務局

農地を借り、講師の指導を下に作付けから収穫まで行い、季節の野菜を育てている。7月には市長を招き、プチ収穫祭を行っている。

○委員

大学祭で野菜販売の様子を見たが、始まる前から行列ができており、1時間ほどで完売していた。

○委員

農地はどこにあるのか。

○事務局

西立野に所在する。戸塚安行駅から徒歩で15分ほどの場所である。

○委員

土づくりから行うので1年かかる。受講生はもとより農地の維持管理をするスタッフの労力は測り知れない。

○委員長

他にご意見・質問はあるか。

○委員長

(特になし)

イ その他について

○委員長

事務局から連絡事項等あるか。

○事務局

次回の運営委員会では、農業体験以外のコースについて受講料の審議を行う予定である。

令和2年の1月下旬から2月上旬に第2回運営委員会を行う予定である。日程については後日連絡させていただく。

○委員長

委員からは何か連絡等あるか。

○委員

募集定員に対し受講生が集まらない。さらにその受講生の中で卒業生も少ないということでは、社会起業・ビジネスコースなどは行わなくてもよいのではないかと個人的には感じる。コース内容の見直しについても今後考えていく必要がある。

○委員

50才を過ぎて地域に貢献という盛人大学の主旨の中で(社会起業・ビジネスコースは)お金の流れを学ぶということには少々違和感がある。地域デザインコースという名称も堅い印象を受ける。そのあたりは今後議論していく必要があると感じる。

○委員

コースの構成については変更する、しないに関わらず運営委員会で協議していく必要がある。

○事務局

盛人大学キャンパスの建物自体の建て替えについての話もある。今後盛人大学のコー

ス運営も含め、あり方を検討していきたい。

3 閉会（10時50分）

○事務局

これをもって、第1回盛人大学運営委員会を終了する。

会議の内容については、以上のとおりです。

令和2年 3月11日

盛人大学運営委員会委員長

(臼倉委員長署名)

盛人大学運営委員会委員

(中村勝文委員署名)
